

障害児（18 歳未満）へのアンケート調査の結果からみえる問題点・課題（1）

アンケート調査の結果	問題点・課題
● 問 14 日常生活の介助について ➤ 日常生活の介助の必要性では、全体的に、身体障害児の方が知的障害児より介助の必要性が高くなっています。 ➤ 身体障害者手帳所持者では、「外出」への介助の必要性が特に高く、次いで、「トイレ」「入浴」「身だしなみ」となっています。 ➤ 療育手帳所持者では、「家族以外の人との意思疎通」への介助の必要性が最も高く、次いで、「外出」「身だしなみ」「入浴」となっています。	➤ 日常生活の介助をみると、身体障害児では「トイレ」「入浴」、知的障害児では「入浴」で介助を必要とする割合が高く、住まいのバリアフリーの促進が求められます。 ➤ 身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者ともに「外出」で介助を必要としており、外出時のスムーズな移動が確保できるよう、道路、公共交通機関、施設等でのバリアフリーによる対応が求められます。 ➤ 療育手帳所持者では、「家族以外の人との意思疎通」に介助を必要とする割合が高く、市民の障害児（者）に対する理解の促進や意思疎通方法の習得が望まれます。
● 問 15 日常的な主な介助者、問 16 主な介助者の年齢・性別 ➤ 日常的な主な介助者は母親で 30 代、40 代が中心となっています。	➤ 日常的な主な介助者は母親で、年代は 30 代、40 代が中心であり、障害児の介助に加えて、経済的負担の軽減のため働いている場合が多く、そのような環境にある場合でも、時間的制約がなく受けられる障害児福祉サービスの提供、経済的支援が求められます。
● 問 19 地域で生活するために必要な支援 ➤ 障害児が地域で生活するための支援として、「経済的負担の軽減」「家族の理解と協力」が望まれています。 ➤ 身体障害者手帳所持者では、「経済的負担の軽減」に次いで、「必要な在宅サービスが適切に利用できる」の割合も高くなっています。また、「障害者に適した住居の確保」の割合は療育手帳所持者に比べ高くなっています。 ➤ 療育手帳所持者では、「経済的負担の軽減」の他に、身体障害児に比べて、「地域住民等の理解」「家族の理解と協力」の割合が高くなっています。	➤ 障害児が地域で生活するためには、経済的な負担が最も重要な問題となっており、経済的支援が望まれます。 ➤ 身体障害者手帳所持者では、家の中での移動や生活が円滑にできる住まいのバリアフリーの促進が求められます。 ➤ 療育手帳所持者では、障害に対する理解が進んでいないと感じている割合が高く、市民の障害児（者）に対する理解の促進が望まれます。 ※ 「問 32 障害があることで差別や嫌な思いをしたことがある」では 59.4%が、差別や嫌な思いをした経験があります。
● 問 23 外出するときに困ること ➤ 外出時に困ることは、「公共交通機関がない（少ない）」の割合が 47.4%と、他に比べて高く、次いで、「周囲の目が気になる（23.7%）」、「切符の買い方や乗り換えの方法がわかりにくい（21.6%）」となっています。 ➤ 身体障害児では、知的障害児に比べて、特に、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」（47.6%）、「道路や駅に階段や段差が多い」（33.3%）の割合が高くなっています。	➤ 障害の種別を問わず、公共交通機関のサービスレベルに対する問題が大きく、障害者の移動を確保するための公共交通のサービスレベルの向上が求められています。 ➤ また、外出時に困ることの 2 番目は、「周囲の目が気になる」であり、これは、「地域で生活するために必要な支援」「日常生活で介助を必要とすること」でも指摘されており、市民の障害児（者）に対する理解の促進が望まれます。 ➤ 身体障害児では、外出で困ることに、「外出先の建物が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」も高い割合を占めており、建物内の障害者の移動を確保することが求められています。
● 問 26(1) 園生活の中で困っていること ● 問 28(1) 学校生活の中で困っていること。 ➤ 園生活、就学においては、「教えてもらっていることが難しくついていけない」が、すべての障害児であがっています。	➤ 障害児が年齢を問わず、教えてもらっていることを難しいと感じており、障害児教育について、わかりやすさを重視した教材、方法、人材育成、人材の質の向上などの取組が望まれます。
● 問 29 今後働くとした場合に必要なこと ➤ 今後の就労については、「住まいの近隣に職場がある」の割合が 51.3%で最も高く、次いで、「企業等が障害者を積極的に雇用する」（48.7%）、「ジョブコーチや職場での相談支援がある」（42.0%）となっています。	➤ 障害児が今後、働くとした場合に必要なことでは、「住まいの近隣に職場がある」の割合が高く、就労先が選べるよう選択肢の拡大が望まれます。 ➤ 次いで、高い割合を占めているのは、「障害者就労に対する職場の理解」や「仕事に就くことへのサポート」であり、障害者を理解し、支援する仕組みが必要と考えられえます。

障害児（18 歳未満）へのアンケート調査の結果からみえる問題点・課題（2）

アンケート調査の結果	問題点・課題
● 問 30 障害福祉サービスの利用、満足度、今後の利用意向 ➤ 障害福祉サービスは、「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」の利用が多く、次いで、「児童発達支援」「障害児相談支援」の利用となっています。 ➤ 現在、利用しているサービスに対する満足度は、いずれのサービスも概ね満足となっていますが、「同行援護、行動援護、移動支援」「短期入所」「放課後等デイサービス」では「不満」（「やや不満」と「不満」の合計）の割合がやや高くなっています。 ➤ 今後の利用意向では、「同行援護、行動援護、移動支援」「機能訓練、生活訓練」「就労移行支援、就労継続支援事」「短期入所」「グループホーム、地域移行支援、地域定着支援」「地域活動支援センター」「成年後見制度」などが、現状の利用に比べて多くなっています。	➤ 「同行援護、行動援護、移動支援」「短期入所」「放課後等デイサービス」では「不満」（「やや不満」と「不満」の合計）と感じている割合が比較的高く、サービス内容の充実や利用しやすさの確保が求められています。 ➤ 障害児の将来も想定して、機能訓練、就労、地域移行などのサービス利用の意向が多くなっており、それらを中心としたサービスの充実と利用しやすさが求められています。

グループインタビューの結果からみた問題点・課題

障害種別	項目	グループインタビューの結果からみた問題点・要望	課題
肢体障害・内部障害者	補装具・日常生活用具	➤ 補装具は、耐用年数が経過すれば使いづらい。 ➤ 補装具は、常に身につけているので体に合ったものがほしい。	➤ 耐用年数を経過した補装具の更新方法を改善していく必要があります。 ➤ 補装具の質の向上が望まれます。
視覚障害者	補装具・日常生活用具	➤ パソコンソフトが更新されないので処理が遅いなど使いづらい。 ➤ 新たに製品化された便利な機器を生活用具に認めてほしい。	➤ パソコンソフトの更新方法を改善していく必要があります。 ➤ 新規の日常生活用具の認定方法を改善していく必要があります。
肢体障害・内部障害者	医療費助成	➤ 身体障害者手帳3、4級では医療費の免除がない。	➤ 身体障害者手帳3、4級の医療費免除を要望してくことが望まれます。
肢体障害・内部障害者	交通・移動	➤ 公共施設において、車椅子利用者が駐車場を利用しづらい場所がある。 ➤ J Rを単独で利用する場合、片道100km以下では割引がなく、障害者の日常的な移動では割引されない。	➤ 公共施設の駐車場利用について、車椅子利用者に適した利用方法が求められています。 ➤ J R運賃の障害者割引について要望のバックアップを求められています。
視覚障害者	交通・移動	➤ タクシー券を自分の裁量で利用できない。 ➤ 交差点で信号機があることが視覚障害者にはわからないため設置位置がわかるようにしてほしい。	➤ タクシー券の使い方について改善が求められています。 ➤ 視覚障害者に信号機の位置がわかるような改善・開発を要望していくことが求められています。
視覚障害者	行政対応	➤ 行政からの文書については、点字表記をしてほしい。	➤ 市からの文書・案内等について点字表記が求められています。
視覚障害者	情報提供・周知	➤ 65歳以上の障害福祉サービスと介護保険によるサービスとの関係等について知らなかった。	➤ 65歳以上の方の障害福祉サービスと介護保険サービスの関係についてわかりやすい情報提供が望まれます。
聴覚障害者	行政対応	➤ 市役所や公共施設ではほとんど手話通訳者が配置されていないので、申請等の手続などが難しい。	➤ 市役所や公共施設の窓口での手話通訳者の適切な配置が求められています。
聴覚障害者	理解	➤ 聴覚障害者は、費用がかかるためか講演会等で講師として呼ばれることがなく、それが聴覚障害者への理解が進まない要因ではないか。	➤ 聴覚障害者の理解を深める取組が求められています。
知的障害者	就労	➤ 給料を上げてほしい。	➤ 給料体系の検討が求められています。
知的障害者	福祉サービス	➤ 移動支援は利用時間に制約があり使えない。	➤ 移動支援が利用できる時間について改善が求められています。
知的障害者	理解	➤ 障害や障害者のことを知ってほしい。	➤ 障害や障害者の理解に対する取組の推進が求められています。
発達障害者	情報提供・周知	➤ 障害福祉サービス等の手続がよくわからない。	➤ 障害福祉サービス等の手続の簡素化や周知手法の改善が望まれます。
発達障害者	就労	➤ 見た目で障害者と判断されないことによる不安がある。	➤ 就労の場面で、障害や障害者の理解に対する取組の推進が求められています。
発達障害者	療育	➤ 療育を受けられなかった場合、大人になってからでも療育を受けたい。	➤ 療育と同様の内容を大人でも受けられる方法を検討する必要があります。
精神障害者	就労	➤ 体調に合った仕事ができない。	➤ 就労できる仕事の種類や場の拡大が求められています。
精神障害者	情報提供・周知	➤ 精神障害に対する正しい理解をしてもらうよう広報してほしい。	➤ 精神障害に対する正しい情報提供が求められています。
重症心身障害者	就労	➤ 企業等の雇用者に障害に対する正しい理解をしてほしい。	➤ 介助者の就労の場面で、障害や障害者の理解に対する取組の推進が求められています。
重症心身障害者	福祉サービス	➤ 短期入所の施設、医療的ケアを受けられる施設を整備してほしい。	➤ 施設整備の促進が望まれています。
重症心身障害者	相談	➤ 介助者に定期的に話を聞いてもらう機会がほしい。	➤ 障害者の介助者を対象とした相談等のできる場が求められています。
重症心身障害者	情報提供・周知	➤ 障害についての情報がほしい。	➤ 障害に対する正しい情報提供が求められています。
障害児等	療育	➤ グループ療育が小学2年までなので延長してほしい。	➤ グループ療育の利用方法の改善が望まれています。
障害児等	福祉サービス	➤ 放課後等デイサービスが利用しづらい。	➤ 放課後等デイサービスの利用方法の改善が望まれています。
障害児等	福祉サービス	➤ 相談支援事業所が利用しにくい。	➤ 相談支援のあり方について改善が望まれています。
障害児等	情報提供・周知	➤ 障害福祉サービスの内容などの情報をどこで得られるのかわからない。	➤ 障害に関する情報提供の機会の拡充が求められています。